

第1回 次世代型太陽電池の導入及び産業競争力強化に向けた官民協議会

○日時

令和6年5月29日（水）14時00分～16時00分

○場所

経済産業省本館17階 第二特別会議室 / オンライン

○議題

太陽電池産業の歴史と次世代型太陽電池の可能性

○プログラム

1. 開会
2. 齋藤経済産業大臣挨拶
3. 趣旨及び運営要領説明
4. 座長選任
5. プレゼンテーション
資源エネルギー庁より資料2について発表
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構より発表（資料非公開）
株式会社資源総合システムより発表（資料非公開）
太陽発電技術研究組合より発表（資料非公開）
6. 議論
7. 閉会

○議事概要

- ・エネルギー産業全体、国として必要なエネルギー全体の中で、太陽光発電及びペロブスカイト太陽電池をどのように位置づけるかが重要。
- ・地域ごとに導入目標を策定することもあり得る。また、自治体での導入目標についても今後議論できると良い。
- ・システムの在り方、分散型、蓄電池、他の電源などトータルのエネルギーコストを俯瞰してみるのが重要。
- ・既存の太陽電池を設置できる土地が少なくなっている中で、次世代型太陽電池には大きく期待。設置の容易さなどを活かし、これまで耐荷重性や耐震性等を理由に太陽電池を設置できなかった既存建築物への普及拡大を期待したい。
- ・地域共生上の課題については、今後もしっかりと議論していくべき。

- ・ 設置に関する具体的な指針の検討や建築基準法等の関連法の整備もお願いしたい。修繕・メンテナンス・適正処理・リサイクルについても検討が必要。
- ・ 過去の反省を活かし、出口戦略を検討するとともに、産業育成の観点からは、産官学が連携し、伴走して進めるなどのアプローチを検討することが重要。
- ・ 安価・安定供給の確保・技術の質の確保に資する形で、地域共生を含めて責任ある形で電力供給が可能となるよう留意しながら、支援制度の検討を進めてもらいたい。
- ・ 公共施設で先行して次世代型太陽電池を設置することは、予見性のある当初の需要を一定確保する意味で、投資決定の大きな後押しになる。
- ・ FIT/FIP を利用した支援の在り方や買取価格等への適正な価値の反映についても検討することが重要。
- ・ 自治体単独では導入が難しい場合もあり、国からの支援や都市部との連携した取組についても検討してほしい。
- ・ フィルム型ペロブスカイト太陽電池だけでなく、ガラス型やシリコン-ペロブスカイトのタンデム型太陽電池の開発も後押ししてもらいたい。
- ・ ペロブスカイトに含まれる鉛の含有量は少なく、リサイクルも技術的に可能。
- ・ 海外市場にも目を向けることが重要。投資と回収のスピードが需要であるとともに、ペロブスカイト太陽電池の特徴を抑え日本の勝ち筋を見極めなければならない。
- ・ 海外進出により市場拡大が進めば価格低減も期待できる。ブランディングが重要。
- ・ 技術流出を防ぐためにも、製造装置メーカーとも連携し、太陽電池メーカーが安定して製造装置メーカーから設備投資をできるような環境を作る必要がある。
- ・ 営農型太陽光発電についても期待したい。
- ・ 景観の観点から、形状に加えて、色彩や透明性、その他の色にできるものがあると、大きく導入容量を増やせる可能性がある。
- ・ 今後、EV車、既存のガソリン車の屋根部分に乗せることなども検討できるのではないか。

お問い合わせ先

経済産業省資源エネルギー庁

省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー課

電話：03-3501-4031

FAX：03-3501-1365